

2019 年 9 月 14 日 11:00～12:00、東北大学川内北キャンパス 講義棟 A A200 号室

出席：会長（峰雪）、庶務幹事（永田）、会計幹事（三角）、編集委員長（堀口）、編集委員（榊原、吉田）、
広報委員長（佐々木）、広報委員（吉田）、評議員（今市、唐原、河野、嶋村、塚谷、林、東山、松永、
宮城島、宮沢）、第 31 回大会会長（宮沢）、第 31 回大会準備委員長（酒井）、第 31 回大会実行委員（小
林）

※下線は複数の役職を兼ねている会員

議題：

1. 報告事項

(1) 会長報告(峰雪)

編集委員兼広報委員が宮沢会員から吉田会員に、会計幹事が林会員から三角会員に交替となったことが報告された。2019 年度大会の運営体制についての報告があった。今後の大会運営をどうしていくかを議論するワーキンググループからの最終報告が 2018 年 12 月に提出されたことが報告された。設立 30 周年記念事業として編集された「日本植物学会 30 年のあゆみ」が学会ホームページに掲載されたことが報告された。

(2) 庶務報告(永田)

現在の会員数について報告があった。2018 年度の活動について報告があり、30 周年記念事業を行ったこと、2019 年度大会からポスター賞の対象を学生が発表者の場合に限定したこと、大会中の託児費用補助(300 円/時間)を開始したことが紹介された。

(3) 編集委員会報告(堀口)

編集委員が宮沢会員から吉田委員に交替となったことが報告された。Plant Morphology 30 巻を 2019 年 4 月に J-stage に公開、31 巻を 2019 年 4 月刊行(郵送は 8 月)したことが報告された。印刷費用削減に努めており、29 巻に比べて、費用が約 2 万円低く抑えられたことが報告された。

(4) 広報委員会報告(佐々木)

30 周年記念事業として「日本植物学会 30 年のあゆみ」を、広報委員長が、吉田広報委員、宮沢前広報委員、永田庶務幹事、峰雪会長の意見を取り入れながら編集し、学会ホームページに掲載した旨が報告された。ホームページ改良に必要な予算が確保されたので、ホームページを利用しやすくするための改良を進める予定であることも報告された。

(5) 会計報告(2018 年度決算)／会計監査報告(林／野口)

平成 2018 年度決算が報告された。例年に比べての大きな違いは無かったことが報告された。平成 2018 年度決算について会計監査実施報告があり、適正であった旨の報告があった。

(6) 3 賞選考結果について(今市)

今年度の植物形態学会 3 賞について選考の経緯が報告された。選考委員会は、選考委員長(今市評議員)、委員(嶋村評議員、東山評議員、宮沢評議員、堀口評議員)及びオブザーバー(峰雪会長)から構成され、審査の結果、学会賞は塚谷裕一会員が、平瀬賞は井元祐太会員を代表とする論文 1 編と、松永幸大会員を代表とする論文 1 編の計 2 編、奨励賞は小林優介会員、平川健会員、松崎令会員の計 3 名が授賞することになったとの報告がなされた。受賞理由の説明があった。

(7)2019 年度大会(仙台)について(宮沢)

2019 年度大会について、9 月 14 日、東北大学川内北キャンパスにて、宮沢会員を大会長、小林会員を大会実行委員として開催中である旨が報告された。ポスター発表は 48 題でありほぼ例年通りであることも報告された。翌日からの植物学会において、本学会と IIRS(総合画像研究支援)が共催するシンポジウム「最先端可視化技術による植物解析～見る顕微鏡から捉える顕微鏡へ～」が 9 月 15 日に開催されることが紹介された。

別途、永田庶務幹事より、最終的に登録のあったポスター発表 48 題に対して、それよりも前に確保していたポスターボードが 50 台であったため、次回以降はあらかじめ 60 台程度用意した方が良いとの意見があった。

(8)2020 年度大会(名古屋)について(東山)

2020 年度大会を、日本植物学会の前日(2020 年 9 月 18 日)に、名古屋大(植物学会会場と同じキャンパス内)のトランスフォーマティブ分子研究所にて、東山会員を大会長として、佐々木会員を大会実行委員長として開催する予定であることが報告された。

永田庶務幹事より、これまでの大会運営に関わった方々の情報も、その功績への謝意を表するため、学会ホームページに掲載の年表に追記したいので、掲載されていない情報を持っている場合には連絡してほしいという旨の連絡があった。

(9)その他

なし

2. 審議事項

(1)2019 年度事業計画案について(永田)

2019 年度事業計画案(ただし、評議員会当日までは実績)が示された。

2019 年度大会からポスター賞の対象を、学生が発表者の場合に限定したが、初めての試みであるため、その効果や改善すべき点等についてフィードバックがほしい旨の連絡があった。

学会役員会において、Plant Morphology 誌のバックナンバー(J-STAGE に掲載されていない部分)をすべて PDF 化して保管し、役員または会員のみが閲覧できるような体制を整える旨の議論が進んでいることの報告があった。これに対し、科研費の取得状況などの個人情報も存在するため、閲覧可能な対象を、会員全体では無く役員に限定した方が良いのではないかと指摘があり、今後さらに検討するとの方向性が示された。

その他特に異論等無く、2019 年度事業計画案はすべて承認された。

(2)2019 年度予算案について(三角)

2019 年度予算案(ただし、評議員会当日までは実績)について案が示された。例年と異なる点として、2019 年度中に会長と評議員の選挙が行われるため、そのための印刷費及び郵送費用が生じること、今年度より開始した大会中の託児補助(1 名当たり 300 円/時間)の費用が生じること、30 周年記念事業に関して、座談会の内容の文字起こしの費用が生じることの説明があった。以上は、審議の結果特に異論等無く、承認された。

(3)Plant Morphology 誌(堀口)

学会の各賞の受賞者による総説の執筆に共著者を加えてよいかとの問い合わせがあった旨が報告された。Plant Morphology 誌の規程には、授賞者による総説に関する条件は特に記載されていないことの確認がなされた。審議の結果、共著者を加えても良いということが承認された。

(4)その他

無し。

(5) 総会議長候補の選出について(永田)
総会の議長として、河野会員を推薦することが提案され承認された。

以上。

2019 年 9 月 14 日 12:05～13:00、東北大学川内北キャンパス 講義棟 A A200 号室

1. 会長挨拶（峰雪）

会長より挨拶があり以下の内容が紹介された。(i) 2019 年度大会を、9 月 14 日、東北大学川内北キャンパスにて、宮沢会員を大会長、小林会員を大会実行委員として開催中である。(ii) 編集委員兼広報委員が宮沢会員から吉田会員に、会計幹事が林会員から三角会員に交替となった。(iii) 今後の大会運営をどうしていくかを議論するワーキンググループからの最終報告が 2018 年 12 月に提出された。(iv) 設立 30 周年記念事業として編集された「日本植物形態学会 30 年のあゆみ」が学会ホームページに掲載された。

2. 大会長挨拶（宮沢）

2019 年度大会の宮沢大会長より、2019 年度大会の大会実行委員である小林会員の紹介があった。

3. 総会議長選出（永田）

総会議長として、評議員会推薦の河野会員が選出された。

4. 報告事項

(1) 会長報告（峰雪）

会長挨拶の内容を充てることで省略された。

(2) 庶務報告（永田）

庶務幹事より以下の報告があった。(i) 本学会の会員数は現在 258 名（一般会員 199 名と学生会員 59 名）であり、ほぼ維持傾向にある。2019 年度大会よりポスター賞の対象を学生が発表者であるポスター発表に限定することとなった。(ii) 本学会の 30 周年記念事業について、昨年 10 月から議論を進めた結果、「日本植物形態学会 30 年のあゆみ」を編集することとなり、編集が完了し学会ホームページに掲載された。(iii) 今後の大会運営をどうしていくかを議論するワーキンググループからの最終報告に基づき、当面、本学会の大会を従来通り植物学会の前日に開催することとなった。(iv) 2019 年度大会より、大会中の託児料補助（1 人当たり 300 円/時間）を開始した。

(3) 編集委員会報告（堀口）

編集委員の構成（堀口委員長、榊原委員及び吉田委員）の紹介があった。Plant Morphology 誌 Vol. 30 に掲載の論文及び総説を 2019 年 4 月に J-STAGE に掲載したこと、Vol. 31 を 2019 年 4 月に発行したことが報告された。印刷費削減につとめていることの報告があった。

(4) 広報委員会報告（佐々木）

30 周年記念事業として、「日本植物形態学会 30 年のあゆみ」を、広報委員長が、吉田広報委員、宮沢前広報委員、永田庶務幹事、峰雪会長の意見を取り入れながら編集し、学会ホームページに掲載した旨が報告された。

「日本植物形態学会 30 年のあゆみ」は適宜更新が可能なため、更新または追加したい情報（過去の写真等を含む）を持っている会員は、佐々木広報委員長に連絡してほしいという旨の連絡があった

学会ホームページの「最新の研究」欄へのコンテンツ（例えばプレスリリースしたような内容）の投稿の呼びかけがあった。

(5) 会計報告（2018年度決算）／会計監査報告（林／野口）

林前会計幹事より2018年度の決算が報告された。学会ホームページの改良費用が生じたことが例年と異なった点であったことが報告された。すべての支出はほぼ予定通りであったことが報告された。

野口会計監査より、2018年度決算についての会計監査実施報告があり、適正であった旨の報告があった。

(6) 3賞選考結果について（今市）

今年度植物形態学会3賞について、選考の経緯が報告された。選考委員会は、専攻委員長（今市評議員）、委員（嶋村評議員、東山評議員、宮沢評議員、堀口評議員）、オブザーバー（峰雪会長）から構成され、例年通りの日程で選考した結果、学会賞は塚谷会員が、平瀬賞は井元会員を代表とする論文1編と、松永会員を代表とする論文1編の計2編、奨励賞は小林会員、平川会員、松崎会員の計3名が授賞することになったとの報告がなされた。受賞理由については授賞式時に紹介する予定であることの連絡があった。

(7) 2019年度大会（仙台）について（永田）

2019年度大会を、9月14日、東北大学川内北キャンパスにて、宮沢会員を大会長、小林会員を大会実行委員として開催中であり、ポスター発表は48題であることが報告された。植物学会において本学会とIIRS（総合画像研究支援）が共催するシンポジウム「最先端可視化技術による植物解析～見る顕微鏡から捉える顕微鏡へ～」が9月15日に開催されることが紹介された。

(8) 2020年度大会（名古屋）について（東山）

2020年度大会を、日本植物学会大会の前日（2020年9月18日）に、名古屋大（植物学会会場と同じキャンパス内）のトランスフォーマティブ分子研究所にて、東山会員を大会長として、佐々木会員を大会実行委員長として開催する予定であることが報告された。

(9) その他

会計幹事が林会員から三角会員に、広報/編集委員が宮沢会員から吉田会員に交替した旨が報告された。

5. 審議事項

(1) 2019年度事業計画案について（永田）

庶務幹事より、今年度事業計画案（学会当日までの分は実績）について説明があり、審議の結果承認された。2019年12月に行われる予定の次期会長及び評議員選挙への投票の呼びかけがあった。

(2) 2019年度予算案について（三角）

三角会計幹事より、今年度予算案（学会当日までの分は実績）について説明があった。なお、2019年度は、学会各賞の受賞者が多いので賞品代が例年よりも大きくなること、託児費用の補助（1人当たり300円/時間）を開始したこと、選挙用の費用（印刷費、郵送費）、30周年記念事業に関する座談会の文字起こし費用が生じることも説明があった。本予算案は、審議の結果承認された。

(3) その他

無し

以上